

田原町立田原福祉専門学校後援会機関紙

# たつぷく だより

No. 1

編集発行 平成 10 年 3 月 31 日  
田原町立田原福祉専門学校後援会  
会長 川 澄 春 男

## みんなで応援します

### 田原町立田原福祉専門学校

皆さんに待望されていた「田原町立田原福祉専門学校後援会」が、設立された。

昨年春発足した発起人会(代表富田雅則)の提案を受けて、平成九年六月二十五日に開催された創立総会において、会則、役員、事業計画、収支予算が承認され、正式に発足した。

創立年の平成九年度は、後援会組織の確立・拡充、学生の福利厚生

#### 会 則 の 骨 子

**第二条** 本会は、専門学校諸活動及び学生の福利厚生を増進するとともに福祉の拠点としての支援を行っていく。

**第三条** 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- 教育環境の整備促進に関する事項
- 学生及び教員の福祉教育研究及び学習の助成に関する事項
- 会員の研修に関する事項
- 機関紙、その他必要と認められる出版物の発行

**第四条** 本会は、本会の趣旨に賛同する者を持って組織する。

**第十一条** 本会の経費は、会費、寄付金並びにその他の収入をもって充てる。

2 会費は毎年一口五〇〇〇円とする。

充実を重点に活動を進めることに決まった。

なお、後援会の総会は年一回(五月)開催される。したがって、平常の会の運営は役員会を中心に進められることになるが、みんなの英知を集めて、この学校から、福祉社会に役立つ、技能・識見・人柄豊かな人材が巣立つことを期待して活動を進めたい。



#### 川澄会長の談話



後援会は、学校に対する圧力団体であってはなりません。学校や学生の皆さんが地域に親しまれ、愛されて

楽しく勉強していけるような環境と気風をつくっていくことに努めます。

#### 後援会加入状況

会員数は、現在三十七名。多くの皆様の後援会へのご加入をお待ちしています。加入方法等は専門学校内後援会事務局にお問合せください。

# 学 校 紹 介



全国でも数少ない公立の介護福祉士養成のための専門学校として開校した田原福祉専門学校。高齢の方や障害を持たれた方の生活を総合的に支援していく視野の広い介護福祉士を育成するため、「人権尊重の介護」「創造する福祉文化」「地域に開かれた教育」をキーワードに特色ある授業を展開しています。

## 学生・教職員の現況

学生総定員は百六十名 男女比は二対八ですが、男子学生は年々増加傾向にあります。社会人は全体の二割 出身地域別では愛知県が全体の約八割を占めています。全国からの問い合わせも年々増えています。

教職員数は三十五名。校長(西三郎)、副校長(露木悦子)、顧問(一番ヶ瀬康子)、専任教員五名をはじめ各分野の専門教員が教育理念に沿って授業を行っています。

## 検定方式を導入

特に介護技術の修得にあたっては学生一人一人が確かな技術を身につけるため、検定方式を導入しています。また擬似体験やロールプレイ等を通して高齢者や障害者の立場にたった介護が行えるような教育にも努めています。

## 実践力を身につける

介護実習は、特別養護老人ホームや身体障害者療護施設等で二年間に五十日ほど体験し、介護の実践力を身につけていきます。緊張の連続ではありませんが、教員の施設巡回や毎

週の帰校日における学生指導や個別相談、各施設の暖かいご協力のおかげで、介護実習成果をあげることができました。

本校の特徴ある授業の一つに地域福祉実践等の学外演習があります。



介護実習風景

## 地域交流と公開講座

校舎内の一階廊下壁面は老人クラブの絵画や写真の展示コーナーとなっている。高齢者の方の感性が見る者に伝わってくる。

一般公開講座は、各分野で活躍中の専門家を講師に招いて年六回開催した。地域に開かれた学校として定着しつつある。

福祉系の専門書が中心の図書室は、一般の方でも閲覧できる。

毎週地域のデイサービスセンターや小規模作業所、老人ホームなどに出かけて、ケアワークの実践についてより多くを学ぶことができます。

平成一〇年四月からは今後の在宅福祉に対応するため、社会福祉協議会などでのホームヘルプの実践についても学習します。

## 熱い魂を期待

毎年一〇月には学生主催の学園祭が開催され、福祉文化活動(陶芸、籐芸、茶道等)の成果発表や各種イベントが行われます。

地域との連携も深まり、ボランティア活動も自主的に行われるようになりました。

授業後の自主研究、そして校内コンピュータネットワークを活用し、インターネットによる情報検索やEメールも積極的に利用されるようになりました。

ポラントイアサークルや陶芸サークルなども誕生しました。

熱い魂をもった質の高い介護福祉士をめざして、教職員一丸となり教育内容の一層の充実を図りたいと思います。

(田原福祉専門学校)

# 座

## 談

### 学園生活はどうですか

## 会

一学期も終わりに近い十二月十九日の授業後、  
一年生六名、二年生四名の十人の学生たちを集  
団生活について語ってもらった。

この学校で勉強してきた感想、  
また人生の中でこの二年間の意味、  
この学校を選んだ自分の選択に間  
違いはなかったか。

ここで勉強して成長した。自分が  
原因で自分の責任で叱られる。何か  
社会人になったような気がする。

(一年生・十九歳)  
とにかく楽しかった。

初めての一人の生活。学生寮も初  
めて。何もかもここから始まったよ  
うな気がする。そんな中で成長した  
と思う。

(二年生・二十歳)  
寮での生活。高校までは決まってい  
る部分が多く、自分で考えること  
が少なかった。ここでは自分でしな  
いと何も始まらない。自分で考えて  
行動することの大切さを学んだ。

(二年生・二十歳)



学生寮多目的ホールにて

いろいろな人がいて、そういう人  
の話を聞いたのがよかった。

(一年生・十九歳)  
アパートで一人暮らし。あつとい  
う間に過ぎた。個性の強い人が多く  
いて楽しい。(一年生・十九歳)

友人、先輩が良い人だったため、  
高校時代に比べると性格が変わり、  
明るくなったと言われる。

(一年生・十九歳)  
いい先輩や友人がいて楽しい。

伝統も先例もなく一期生の大変さ  
を思った。町立というわりにアット  
ホームで、この雰囲気よかった。

(二年生・二十一歳)  
福祉の分野へ入り、自分が変わっ  
ていくのがわかる。前向きに行動で  
きるようになった。

### 学校の施設、設備等について

授業内容のことだけど、一年生は  
講義が多く、二年になると実習が多  
くなる。つらいこともあったが何と  
かがんばれた。

特に不自由を感じたことはない。  
田舎にはみえないような立派な先生  
も来てくれている。  
満足しています。

### 寮生活やアパート生活について

一人暮らしをしてみても、親の大切  
さを感じた。高校時代など反抗する  
ときもあったが、今は接し方も変わ  
ってきた。自宅から通学する人がう

## クイズ

これは何でしょう。



答は、前ページを見てね。



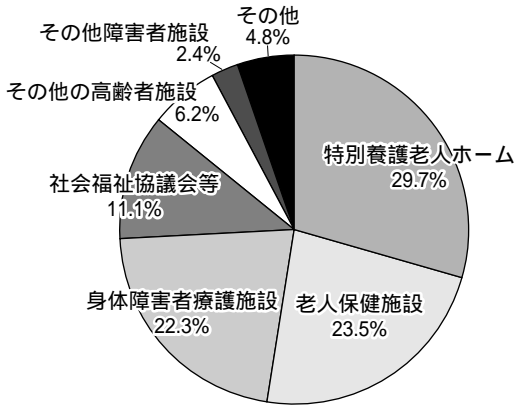
家政学実習風景

らやましい。  
個室で、自分の好きなものを作っ  
て食べるのが楽しいと思っただが、や  
っぱり、時々食堂でみんな食べて食  
べものもいいなあと思う。  
男ですが、食事を作るのは苦痛で  
はない。ちゃんと作っています。井  
物が得意！  
寮の生活は、友だちに助けられる  
ことが多く、ありがたかった。

### 平成 10 年 3 月卒業者の進路

就職先は、特別養護老人ホーム、老人保健施設など高齢者施設の介護職へ約 5 割、身体障害者療護施設など障害者施設の指導員、介護職へ約 3 割、社会福祉協議会などのホームヘルパー、在宅介護支援センター、救護施設、精薄施設、福祉機器会社等へ約 2 割で、就職率 100% を達成しました。

わずかですが、大学等へ進学する学生もいます。



**就職に対する不安はありませんか。**  
不安はありません。介護福祉士の資格をもって就職しますが、実務経験

学園祭(たつぷく祭)についての感想、意見を聞かせてください。  
できればは、今年の方がよかったと思う。みんなでよく討論もできたし、心構えも良かったと思う。  
開催日が休みでない日なのでどうかなと思っただが、地元の人へのアピールはできたのではないかなと思う。  
日曜日が入れば、子供も増えて客層が変わる。見てもらわなければ分かってもらえないのだから、考えたと思う。

がないために即戦力にならないのではないかという思いがあります。  
実習期間中、寮母さんに助けられながらやってきたのだから不安はないです。でも笑顔でがんばっていききたい。  
職場は体力のいる仕事ですから健康管理に気をつけてがんばります。  
人間関係が大切だと思っ。職場の人と仲良くできればいい。  
就職した経験もあるの、スマイ



たつぷく祭「演劇」でのひとこま

ルを忘れずにやってゆきたい。

良い伝統、校風を築いていくために、後輩たちに何か伝えることはありませんか。

自分たちで作っていくのだから中途半端ではいけない。「去年こうだった。」ということよりも、新しい方向へ踏み出していくように考えてほしい。  
実習先で間違いをしないように。  
実習先の印象を大切に。後輩たちのことも考えて、「田原福祉専門学校の学生は違うなあ。」と言われるように努力してほしい。

お互いに悪いことは悪いと言いかえるような、善悪のけじめのしっかりした人に入学してきてほしい。



最後に「田原」の町や人についての印象を聞かせてほしいな。

僕の出身地は牧ノ原ですが、よく似ているところがあり、自然に感じました。

田舎だと思う。ただし、発展途上の面白さがある。その発展を身をもって体験できる町。

田原の人は温かい感じがする。優しく親切です。頭を下げただけでもあいさつをして話しかけてくれる。街の人は温かい感じがする。キャベツや花をくれたり・・・。

田原は目の保養になる。山や海が近くにあるし。初めて渥美線に来たとき緑が多くていいなあと思った。

田原祭の翌日が前期試験で、せっかくの賑やかな山車も花火も楽しむことができなくて残念でした。

### あとがき

「たつぷくだより」のたつぷくは、毎年十月に開催される学生主催の学園祭の名称「たつぷく祭」から名付けました。田原福祉の「田」と「福」をもじって、たつぷり幸せになろうという意味で、学生たちが考えたそうです。

創刊号は、学生の声を中心に掲載しました。

広報委員会